

2023年
(令和5年)
6月13日
(第三種郵便物認可)
昭和23年4月15日
毎月3回発行
(第1、第2、第3火曜日)

今号の特集
▷夏物麺類特集 ④～⑤面
▷食用ごま・ごま油特集 ⑥面
中部飲食料新聞社ホームページ
<http://chuin.net/>【業界情報発信中】



第3474号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5-18-9
電話 (052)571-7116代表
FAX (052)571-7118
東京局
東京都中央区日本橋横山町1-4-203
電話 (03)5614-7531
FAX (03)5614-7532

大正から
食を伝えて100有余年
中部飲食料新聞

食品・流通企業

協業・共創が拡大

新価値創造・業務効率化などシナジー

食品メーカー、小売企業、食品卸企業他企業との協業・共創が拡大している。それぞれのリソースや強みを相互に活用する事で、シナジーの創出や業務の効率化、事業運営のブレックスルを指すもので、新たな価値創造、量から質への転換が求められる時代において有効な施策となる。日本アクセス 富士通が開発したSaaS型AIサービス「Fujitsu買掛照合AIサービス」を取り入れるとの買掛照合業務の効率化を目的に導入、4月より運用を開始した。両社は試験運用を数カ月間実施し、買掛照合業務に従事するスタッフの稼働時間の削減効果を確認した。ファミリーマート(株) アサヒグループジャパ

「こだわり酒場のタコハイ」の23年販売計画を当初計画の250%から2倍となる500万%に上方修正した。「こだわり酒場」ブランドは日々の晩酌がより豊かな楽しいものになるようにとの思いから18年に「こだわり酒場のレモンサワー」を発売。19年に「こだわり酒場のレモンサワー」を発売。料飲店で飲むような本格



味の素社(東海事業所) 100%再生可能エネ切替え完了
味の素社は、三重県四日市市の「東海事業所」で22年度のすべての購入電力の非化石証書を調達する事で、同事業所における「100%再生可能エネルギー」への切替えを完了したことを発表した。味の素グループは、23年度に温室効果ガス排出量を18年度比で50%削減することに取り組んでいる。

総合センターは植物ウイルスの簡易診断の実用化に向け共同研究を進めてきたが、キユウリやメロウなどのウリ科野菜で問題となる退緑黄化病の原因ウイルスを迅速に診断する「ウリ類緑黄化ウイルス検出キット」を開発。ニップン 茨城県農業

日本コカ×サントリー食品 「ポトルポトル」認知拡大
日本コカ・コーラとサントリー食品インターナショナルは、日本国内で「ポトルポトル」を水平リサイクルの認知拡大に向け協業。2社の「ポトルポトル」啓発ロゴを組み合わせた広告を制作、発信することで合意した。同広告は先般開始され

自然のおいしさ!!
ゴシマ ジヤム
小島食品製造株式会社
本社 東海市名和町一番割中25
電話 <052>603-3511

いなば食品 駒越食品(静岡県) 持分法適用会社
いなば食品は5月24日に「駒越食品(株)静岡県静岡市清水区駒越東町10号8番」の全株式の35%を取得、持分法適用会社となった事を発表した。駒越食品は食品缶詰製造企業で従業員は約60名、売上高は二六億円(22年度実績)。同社は今回の株式取得により、両

国産原料拡大か? コロナもそうだった。ロシアのウクライナ侵攻は多くの事を炙り出した。ロシア、ウクライナからの日本への小麦輸入量はほぼ無いにも拘らず、巡り巡って日本にも影響を与えている。石油についてもロシアへの制裁の影響から、現物が無い訳ではないのに(しかも格安なのに)、日常生活に大きなインパクトを与えている。さらに農産物も両国が肥料輸出大国という事や生育過程で使用する電力料金の高騰などから、世界的にコスト・価格アップの事態となっている。先般、セブンイレブンの自社の麺製品に国産小麦を使用する事を発表した。小麦のみならず国産原料への切替えは一部で進んでいたが、一時的なものなのか、はたまた定着・加速するのか、その動向が注目される。長年言われてきた我が国の食の安全保障。今回も外圧によってようやく動き出した感がある。

からだにうれしい、ごまかけ習慣
ShinSei
すべての人を笑顔にしたい
株式会社 真誠(しんせい) 〒481-8526 愛知県北名古屋市片場新町29 | TEL(0568)23-3311 FAX(0568)22-4245 | 北海道・東北営業部/関東営業部/中部営業部/近畿営業部/中四国営業部/九州営業部/関ヶ原工場/名古屋工場/胡麻の郷